琉球大学学術リポジトリ

琉球大学における教育のルネサンス

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 富夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41665

琉球大学における教育のルネサンス

大学教育センター長　高良　富夫

今年は、第１中期目標期間が終了し、第２中期目標期間が始まる年です。また、7年に一度の教育の認証評価を受審する年にもなっています。

これまでの第１中期目標期間においては、それ以前の自己評価書を基に、教育の改善すべき点を洗い出し、その頃としては先進的な内容を中期目標に掲げて推進してきました。その結果、大学の目標及び学部・学科等の目標の明確化、アドミッションポリシーの明確化、大学院を含めてシラバスの100%整備・オンライン化、GPA 制度とクレームシステムの制定など、さまざまな教育改善を行うことができました。もちろん、琉球大学の伝統であり全国的にも先進的な、登録単位の 20 単位上限制度、年間 16 単位未満取得者の除籍制度、年次指導教員によるきめ細かい履修指導制度も引き続き推進してきました。

しかし、琉球大学の教育の中期目標は、当初は先進的なものではありましたが、6年の間に教育改善の波が全国的に進展し、琉大の目標が平凡に見えるようになってしまいました。また、昨年の中間法人評価においては、教育改善の状況を自己評価書に的確に表現できなかったのが原因で、必ずしも高い評価が得られず、大変残念な結果となってしまいました。

そこで、新たな第２中期目標期間では、上記の改善内容をさらに進展させるとともに、大学卒業生が備えているべき能力とされる最近話題の「学士力」の内容を取り込み、琉球大学独自の学士力標準を設定することになりました。この学士力を養成する4年（6年）一貫教育体制を、琉大グローバル・シティズン・カリキュラム(URGCC)と呼び推進します。学士力とは、コミュニケーション・スキルなど汎用的技能と自己管理力など態度・指向性などのことで、これらを養成するリベラルアーツ型教育がいま話題となっています。しかし、このような教育内容は、実は琉球大学では、すでに、創立以来の伝統であるアメリカ型大学教育の中に含まれていました。従って URGCC は、学士力に関する琉球大学の文芸復興（ルネサンス）であるということになります。

URGCC を成功させるためには、教職員の意識の持ち方が重要です。琉大の教育の伝統を理解し、それを高いレベルに位置づけ、実質化して、大学の目標に向かって教育改善のPDCAサイクルを常に回すことが重要です。URGCC を実行することによって意識改革を行う必要があります。

今回のセンター報には、以下のように教育の改善に役立つ内容が多数含まれています。

・教育改善のための学生調査の結果
・優れた教育内容と方法であると学生に高く評価され、プロフェッサーオブザイヤーを受賞した教員の授業の紹介
・平成 21 年度に実施された共通教育改革の一つである英語カリキュラムの結果

これらの内容を活かしながら、皆様とともに、新たな中期目標期間の大きな一歩を踏み出したいと思います。